

# *ES/1 NEO*

CSシリーズ

CIO レポート

使用者の手引き



株式会社 アイ・アイ・エム

第2版 2016年 8月

---

©版權所有者 株式会社 アイ・アイ・エム 2016年

**© COPYRIGHT IIM CORPORATION, 2016**

**ALL RIGHT RESERVED. NO PART OF THIS PUBLICATION MAY  
REPRODUCED OR TRANSMITTED IN ANY FORM BY ANY MEANS,  
ELECTRONIC OR MECHANICAL, INCLUDING PHOTOCOPY RECORDING,  
OR ANY INFORMATION STORAGE AND RETRIEVAL SYSTEM WITHOUT  
PERMISSION IN WRITING FROM THE PUBLISHER.**

**“RESTRICTED MATERIAL OF IIM “LICENSED MATERIALS – PROPERTY OF IIM**

# 目次

第 1 章	機能概要 .....	1
1.1.	全体構成 .....	1
1.2.	評価概要 .....	2
1.2.1.	コスト削減 .....	2
1.2.2.	安定稼働 .....	2
第 2 章	環境設定 .....	3
2.1.	性能データの収集 .....	3
2.2.	Flatfile Maintenance によるデータ集約 .....	3
2.3.	フラットファイルの複数読み込み指定ファイル .....	4
2.4.	定義ファイル .....	5
2.5.	カスタム設定ファイル .....	6
2.6.	評価条件ファイル作成 .....	7
2.6.1.	起動方法 .....	7
2.6.2.	CS-ADVISOR メイン画面 .....	8
2.6.3.	CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (1/6) 画面 .....	9
2.6.4.	CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (2/6) 画面 .....	11
2.6.5.	CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (3/6) 画面 .....	13
2.6.6.	CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (4/6) 画面 .....	14
2.6.7.	CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (5/6) 画面 .....	15
2.6.8.	CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (6/6) 画面 .....	16
第 3 章	評価 .....	17
3.1.	評価実行手順 .....	17
3.2.	評価結果閲覧 .....	18
3.2.1.	評価結果ファイル閲覧手順 .....	18
3.2.2.	評価結果ファイル閲覧 .....	19
3.3.	Performance Web Service での閲覧 .....	20

# 第1章 機能概要

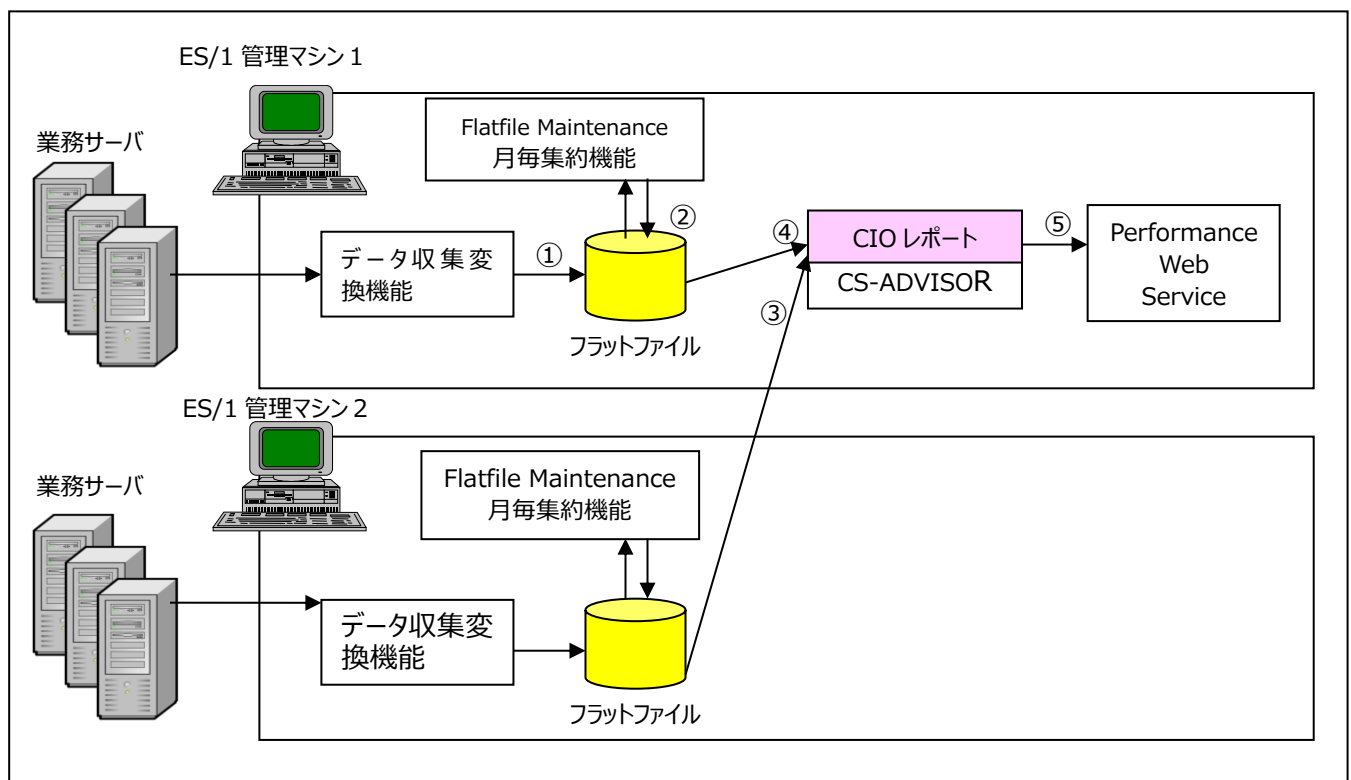
本書は、サーバ投資に対するコスト削減や、サーバの安定運用を実現するための月次実行レポート機能である、CIO レポートについて記述しています。

## 1.1. 全体構成

CIO レポートは CS-ADVISOR 上で実行する評価用のスクリプトです。そのため、実行には CS-ADVISOR のライセンスが必要です。

実行した評価結果は、Performance Web Service にアップロードすることが可能です。

また、CIO レポートは複数の ES/1 管理マシン上にあるフラットファイルデータを読み込み対象とすることが可能です。



### 【処理の流れ】

- ①業務サーバの性能データを ES/1 のデータ収集・変換機能にて取得し、フラットファイルへ格納します。
- ②フラットファイル上の詳細データを Flatfile Maintenance 月毎集約機能を使用して、年次集約データに変換します。
- ③別の管理マシン上のフラットファイルも読み込み対象とする場合は、Cscio.ini ファイルに設定します。
- ④CS-ADVISOR を起動して、CIO レポートの評価スクリプトを実行します。
- ⑤Performance Web Service Uploader を使用して、評価結果を Performance Web Service にアップロードします。

## 1.2. 評価概要

CIO レポートは大きく分けて 2 種類の評価を行います。

- ・コスト削減
- ・安定稼働

### 1.2.1. コスト削減

コスト削減は、活用されていないサーバの一覧をランキング形式で可視化することにより、過剰投資サーバの一扫を行うことが可能です。

- ・コスト削減の評価では、下記の 5 種類のグラフを作成します。
- ・CPU 使用率とサーバ投資額の相関図
- ・未活用総額と活用総額
- ・投資総額に対する未活用比率
- ・投資総額に対する未活用比率(Y 軸可変)
- ・未活用金額 サーバ ワースト

グラフの詳細内容については、「出力結果解説書 その 6」をご参照ください。

コスト削減の評価では、活用状態を表す指標として、「CPU 使用率」を使用しています。

その月の代表値として、下記の 2 種類の計算式のいずれか、または両方を出力することが可能です。

- ・最大値
- ・平均値

コスト削減の評価では、1 台 1 台のサーバのコストを表す指標として、「サーバ投資額」を使用しています。もし、サーバ投資額が分からない場合は、代わりの指標として「サーバ能力値」を使用することも可能です。

これら、「サーバ投資額」「サーバ能力値」については、定義ファイルにあらかじめ設定されている必要があります。

### 1.2.2. 安定稼働

安定稼働は、過去のデータと異なる性能データの状態を早期に発見するために、「気づき」の仕組みを用意しています。これにより大規模台数の予兆を検出することが可能です。

安定稼働の評価では、下記の 3 種類のグラフを作成します。

- ・CPU 使用率 飽和予測年月順 ワースト
- ・CPU 使用率 前年同月比順 ワースト
- ・CPU 使用率 前月比順 ワースト

グラフの詳細内容については、マニュアル「出力結果解説書 その 6」をご参照ください。

安定稼働の評価では、稼働状況の指標として「CPU 使用率」を使用しています。

その月の代表値として、下記の 2 種類の計算式のいずれか、または両方を出力することが可能です。

- ・最大値
- ・平均値

## 第2章 環境設定

ここでは、CIO レポートの評価を実行する際に必要な、事前作業について記述しています。

### 2.1. 性能データの収集

CIO レポートでは、下記のデータを使って評価を行います。

- Windows / UNIX / Linux の CPU 使用率
- VMware ESX の CPU 使用率

各データの収集方法については、下記のマニュアルを参照してください。

- Control Center 使用者の手引き
- Acquire 使用者の手引き
- CS-VMware 使用者の手引き

性能データのフラットファイルへのインポート方法については、下記のマニュアルを参照してください。

- CS-MAGIC 使用者の手引き

### 2.2. Flatfile Maintenance によるデータ集約

CIO レポートでは、1 ヶ月単位でサマリーされた年次集約データを使って評価を行います。

そのため、事前に Flatfile Maintenance によるデータ集約作業が必要です。

集約方法については、下記のマニュアルを参照してください。

- Flatfile Maintenance 使用者の手引き

### 2.3. フラットファイルの複数読み込み指定ファイル

CIO レポートの評価では、別の管理マシン上のフラットファイルも読み込み対象とすることが可能です。

単体の管理マシンを対象とする場合、このファイル定義は必要ありません。

ES/1 NEO CS シリーズのインストールフォルダ配下にある「Cscio.ini」をエディタ等で編集してください。

#### 【ファイル仕様】

- ・キー「PathXXX=」(XXX は 3 桁以内の一意的な数字) を定義し、値として CSOUT フォルダを指定します。
- ・「#」で始まる行は、コメント行として扱います。

#### <ファイル定義例>

```
# Cscio.ini
#
# このファイルは、CIO レポート評価で、別の管理マシン上のフラットファイルも
# 読み込み対象とする場合に、その管理マシンの CSOUT フォルダを設定します。
#
# <記載方法>
# [CSOUT]セクションの下に、「PathXXX=」(XXX は 3 桁以内の一意的な数字)キーを定義し、
# 値として CSOUT フォルダを指定してください。
#
# (例)
# [CSOUT]
# Path1=¥¥hostname¥IIM_DATA¥CS¥CSOUT
#
[CSOUT]
Path1=¥¥hostname1¥IIM_DATA¥CS¥CSOUT
Path2=¥¥hostname2¥IIM_DATA¥CS¥CSOUT
```

## 2.4. 定義ファイル

サーバ投資額(万円)、サーバ能力値、リミット(%)をサイト／システム毎に定義したファイルを作成します。

本ファイルが定義されていない場合、CIO レポートの評価は行われません。

また、評価条件ファイルのパラメータ「ConfFile」で指定されたファイルとして存在しない場合は、評価条件ファイルで指定されたサイト／システムを対象に、定義ファイルを作成します。この際、「サーバ投資額(万円)」「サーバ能力値」「リミット(%)」については、空文字が設定されます。

### 【ファイル仕様】

- ・「,」を区切り文字とし、必ず 5 カラム以上の設定が必要です。
- ・6 カラム以上の設定がされている場合は、6 カラム目以降のデータは無視されます。
- ・「#」で始まる行は、コメント行として扱います。

#### <ファイル定義例>

```
#サイト名,システム名,サーバ投資額(万円),サーバ能力値,リミット(%)  
Site1,System1,100,500,  
Site2,System2,200,1000,80
```

サーバ投資額(万円) …… サーバの金額を記入します。

サーバ能力値 …… サーバの能力値を入力します。

リミット(%) …… CPU 使用率 80%を使用限界としてコストを計算したい場合には「80」と入力します。



## 2.5. カスタム設定ファイル

このファイルは、Flatfile Maintenance の月毎集約のシフトの定義を個々のサイト／システム毎に行っている場合に行うカスタム定義です。カスタム定義を行わない場合、このファイル定義は必要ありません。

評価条件ファイルのパラメータ「Summary」の定義では表現できない場合、個別サイト／システムの定義設定を記載します。この定義ファイルに記載されたサイト／システムについては、パラメータ「Summary」定義は見ず、ファイルに定義されたシフト名を対象とします。

### 【ファイル仕様】

- ・「,」を区切り文字とし、必ず 3 カラム以上の設定が必要です。
- ・4 カラム以上の設定がされている場合は、4 カラム目以降のデータは無視されます。
- ・「#」で始まる行は、コメント行として扱います。

### （使用例）

ほとんどのシステムは、Online 時間帯は、「9-17」時のシフト名を使うが、あるシステムだけは「9-15」時のシフト名で評価したい場合等で使用します。

### ＜ファイル定義例＞

```
#サイト名,システム名,シフト定義
Site1,System1,Online9-15
Site2,System2,Online9-21
```

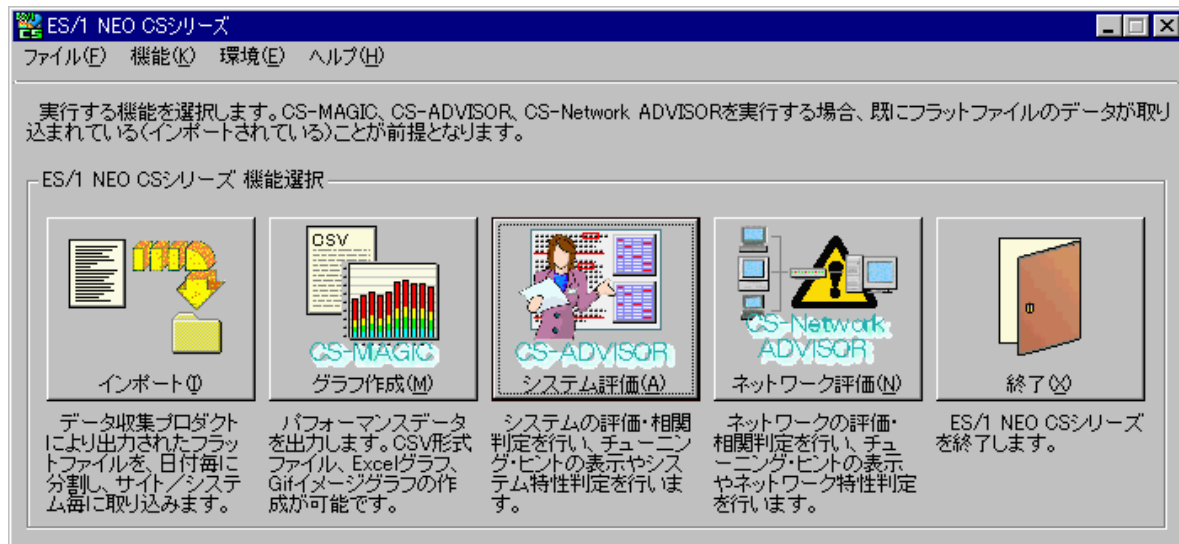
## 2.6. 評価条件ファイル作成

CIO レポートによる評価を実行する際には、評価条件ファイルを作成します。

### 2.6.1. 起動方法

[スタート]メニュー→「プログラム」→「ES1 NEO CS シリーズ」から「CS」を選択します。または、ES/1 NEO CS シリーズのインストールフォルダ配下にある「cs.exe」を起動します。

起動すると、以下のメイン画面が表示されます。



ここで[システム評価(A)]ボタンを押下、または「機能(K)」メニューの「システム分析／評価(CS-ADVISOR)(A)...」を選択すると「CS-ADVISOR メイン画面」が表示されます。

## 2.6.2. CS-ADVISOR メイン画面

CS-ADVISOR メイン画面

評価条件ファイルの情報に従い、評価を実行します。ここでは評価の実行、評価結果の閲覧、評価条件ファイルの作成/変更/削除を行います。

処理選択(S)

☐ システム評価実行  
選択された評価条件ファイルに従って評価を行います

☐ システム評価結果閲覧  
選択された評価条件ファイルを使用して過去に実行した評価結果を表示します

☒ システム評価条件ファイル新規作成  
評価を行うための評価条件ファイルを新規作成します

☐ システム評価条件ファイル編集  
評価を行うための評価条件ファイルを編集します

システム評価条件ファイル一覧(L)

評価単位	設定名	サイト名	システム名

コピー(C)... 削除(D)

システム評価条件ファイル設定内容

評価条件項目	設定情報

テスト評価実行(T) < 戻る(B) 次へ (N) >

ここで「処理選択(S)」から「システム評価条件ファイル新規作成」を選択し、[次へ (N)>]ボタンを押下すると、評価条件ファイルウィザードが開始され、「CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード(1/6)」画面が表示されます。

## 2.6.3. CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (1/6) 画面

CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (1/6)

評価条件ファイルの名前、及び評価対象とするサイト／システムを指定します。

評価条件ファイルのタイトル(T)

評価条件ファイルの名前を指定します。名前は、システム単位で一意となるようにします。ここで指定した名前が評価条件ファイルを識別する名前になります。

CIOレポート(すべてのシステム)

サイト／システム選択(S)

- ☒ site0001
- ☒ site0002
- ☒ site0003
- ☒ site0004
- ☒ site0005
- ☒ site0006
- ☒ site0007
- ☒ site0008
- ☒ site0009
- ☒ site0010
- ☒ site0011
- ☒ site0012
- ☒ site0013

全選択(A) 全解除(R)

評価対象選択(H)

複数システム評価

- ☐ Hyper-V
- ☐ [日次]System過去実績比較
- ☒ [月次]CIOレポート
- ☐ [月次]System, 新增傾向
- ☐ [月次]System, 新增傾向(旧)
- ☐ [月次]VMware, 新增傾向

全選択(L) 全解除(D)

< 戻る(B) 次へ (N)>

## (1) 評価条件ファイルのタイトル(T)

評価条件ファイル毎に固有となる一意の名前を指定します。ここで指定した名前が評価条件ファイルを識別するキーとなります。

**メモ！**

評価条件ファイルのタイトルはフォルダ名にも利用するため「¥」や「/」など、禁則文字を指定することはできません。  
また、「FlatFile」という名称はプログラムで予約されているため指定できません。

## (2) サイト／システム選択(S)

評価対象とするサイト／システムを選択します。

## ① [全選択(A)] ボタン

存在するサイト／システムすべてを選択します。

## ② [全解除(R)] ボタン

選択されているサイト／システムをすべて非選択状態にします。

## (3)評価対象選択(H)

CIO レポートの評価を実行する場合は、「複数システム評価」を選択し、「[月次]CIO レポート」を選択します。

**メモ！**

CIO レポートの評価は、他の評価対象と同時に選択することはできません。「[月次]CIO レポート」のみを選択してください。

[次へ (N)>]ボタンを押下すると、「CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード(2/6)」画面が表示されます。

## 2.6.4. CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (2/6) 画面

評価時に使用するパラメータを指定します。「値」列のフィールドをダブルクリックしてください。

対象選択(H)

ユーザ定義スクリプト情報(D)

パラメータ	値	説明
ConfFile	stdproc¥s_CioReport¥conf.csv	定義ファイル名
Months	13	グラフ表示月数
Summary	*	サマリー対象時間帯定...
SummaryConf	*	サマリー対象時間帯定...
SummaryCost	両方出力	コスト削減で使用する計...
SummaryStab	両方出力	安定稼働で使用する計...
TitleIns	すべてのシステム	グラフタイトルに挿入す...
WorstNumCost	-1	未活用サーバグラフの...
WorstNumStab	10	安定稼働グラフの表示...

< 戻る(B)      次へ(N) >

「対象選択(H)」欄に「[月次]CIO レポート」が表示され、詳細設定が画面右側に表示されます。

変数名	デフォルト値	説明
ConfFile	stdproc¥s_Cio Report¥conf. c sv	【定義ファイル名】 サーバ投資額(万円)、サーバ能力値、リミット(%)を定義したファイル名を指定します。
Months	13	【グラフ表示月数】 何か月分のデータをグラフの X 軸に表示させるかを指定します。
Summary	*	【サマリー対象時間帯定義名(シフト名)】 FFM 月毎集約のサマリー対象時間帯定義名を指定します。 「*」が指定された場合は、すべてのサマリー対象時間帯定義のデータを対象に計算を行います。 複数個のサマリー対象時間帯定義名を指定する場合は、それぞれの定義名をカンマ「,」で区切って指定します。
SummaryCost		【サマリー対象時間帯定義名(シフト名)のカスタム設定ファイル名】 カスタム設定ファイル名を指定します。 上記の Summary の定義では表現できない運用を行う場合、個別サイト／システムの定義設定を記載します。 この定義ファイルに記載されたサイト／システムについては、上記の Summary 定義は見ず、ファイルに定義されたシフト名を対象とします。
SummaryCost	両方出力	【コスト削減で使用する計算値】 コスト削減の評価時に使用する計算式を指定します。 選択肢には、「最大値」「平均値」「両方出力」が存在します。

変数名	デフォルト値	説明
SummaryStab	両方出力	<p>【安定稼働で使用する計算値】</p> <p>安定稼働の評価時に使用する計算式を指定します。</p> <p>選択肢には、「最大値」「平均値」「両方出力」が存在します。</p>
TitleIns	すべてのシステム	<p>【グラフタイトルに挿入する識別情報】</p> <p>各種グラフタイトルに追加する識別情報を指定します。</p> <p>具体的には、サイト名や業務グループを指定し、それぞれのグラフの識別ができるようにします。</p> <p>下記の文字については、指定禁止とします。（サイト／システム名と同等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半角片仮名</li> <li>・¥ / : , ; * ? " &lt; &gt;   .</li> <li>・#</li> <li>・機種依存文字（①②③..., I II III..., (株)ドルビー...等）</li> <li>・JIS X 0201、JIS X 0208（Shift_JIS、CP932、Windows-31J）に含まれない文字、および、外字</li> </ul> <p>また、Windows のファイル名、ディレクトリ名として使用できない予約名についても指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CON、PRN、AUX、CLOCK\$、NUL、COM0～COM9、LPT0～LPT9</li> </ul>
WorstNumCost	-1	<p>【未活用サーバグラフの表示サーバ数】</p> <p>コスト削減の評価時に出力する未活用サーバグラフで表示させるサーバ数を指定します。</p> <p>「-1」が指定された場合は、すべてのサーバをグラフに表示します。</p> <p>グラフは、「ワースト 1-50」「ワースト 51-100」というように、1つのグラフに50台ずつ表示し、サーバ数分のグラフを複数個作成します。</p>
WorstNumStab	10	<p>【安定稼働グラフの表示サーバ数】</p> <p>コスト削減の評価時に出力する、各種安定稼働グラフで表示させるサーバ数を指定します。</p>

[次へ (N)>]ボタンを押下すると、「CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード(3/6)」画面が表示されます。

## 2.6.5. CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (3/6) 画面

CIO レポートの評価では、この画面での設定をする必要はありません。

[次へ (N)>]ボタンを押下すると、「CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード(4/6)」画面が表示されます。



## 2.6.6. CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (4/6) 画面

CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (4/6)

出力ファイルの種別、及び形式と評価結果ファイルの出力先ベースフォルダを指定します。

グラフ出力形態(G)

グラフを出力するか否かと、出力形態、出力先ベースフォルダを指定します

☒ Excelグラフを出力する

☒ GIFイメージグラフを出力する

C:\IIM\_DATA\CS\ADVOUT 参照(V)...

CSV形式ファイル(C)

数値データをCSV形式ファイルに出力するか否かと、出力先ベースフォルダを指定します

☒ CSV形式ファイルを出力する

C:\IIM\_DATA\CS\ADVOUT 参照(S)...

< 戻る(B) 次へ (N)>

## (1)グラフ出力形態(G)

評価を実行した際、グラフを出力することができます。グラフは、Microsoft Excel 形式のグラフと、GIF イメージ形式グラフの2種が用意されています。どちらかの形式、または両方の形式で出力します。

## (2)CSV 形式ファイル(C)

評価を実行した際、数値データを CSV 形式ファイルに出力することができます。

[次へ (N)>]ボタンを押下すると、「CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード(5/6)」画面が表示されます。

## 2.6.7. CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (5/6) 画面

CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (5/6)

ファイル作成対象とする日時の範囲を指定します。対象日の自動設定も可能です。

**開始日時**  
対象期間の開始日と開始時刻を指定します。日付を固定としない場合は、ファイル作成を実行したコンピュータのシステム日付を基準とした相対日となります。

年(Y)  
☒ 実行年の 0 年前  
☐ 固定年

月(M)  
☒ 実行月の 1 ヶ月前  
☐ 固定月

日(D)  
☐ 実行日の  
☒ 固定日 1 日

開始時刻 00 : 00

実データ一覧(C)...

**終了日時**  
対象期間の終了日と終了時刻を指定します。終了日には、開始日に指定した日を基準とした相対日も指定する事ができます。

☒ 開始日を基準として終了日を指定する(S)

年(E)  
☐ 実行年の  
☒ 開始日の 0 年後  
☐ 固定年

月(G)  
☐ 実行月の  
☒ 開始日の 1 ヶ月後  
☐ 固定月

日(P)  
☐ 実行日の  
☒ 開始日の -1 日後  
☐ 固定日

終了時刻 23 : 59

実データ一覧(W)...

☐ 評価実行時に対象日時の指定を行う(A)

1日前(Q) 1ヶ月前(W)

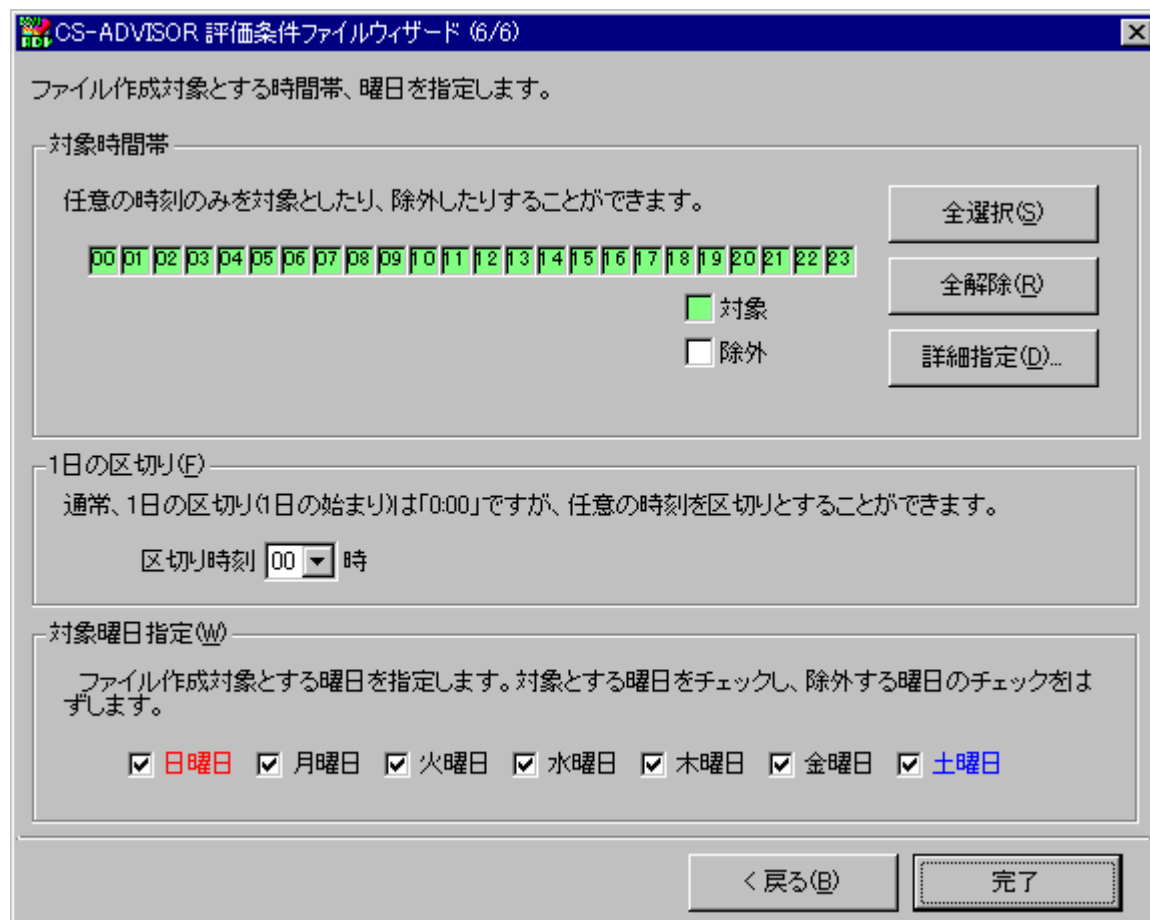
< 戻る(B) 次へ (N)>

評価対象とする期間(開始日 開始時刻 ~ 終了日 終了時刻)を指定します。

CIO レポートの評価では、月初から月末までの 1 ヶ月間のデータを指定してください。先月を評価対象とする場合は、[ 1 ヶ月前 (W) ]ボタンを押下すると、自動的に設定が行われます。

[次へ (N)>]ボタンを押下すると、「CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード(6/6)」画面が表示されます。

## 2.6.8. CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (6/6) 画面



CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザード (6/6)

ファイル作成対象とする時間帯、曜日を指定します。

対象時間帯

任意の時刻のみを対象としたり、除外したりすることができます。

00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

☒ 対象  
☐ 除外

全選択(S)  
全解除(R)  
詳細指定(D)...

1日の区切り(E)

通常、1日の区切り(1日の始まり)は「0:00」ですが、任意の時刻を区切りとすることができます。

区切り時刻 00 時

対象曜日指定(W)

ファイル作成対象とする曜日を指定します。対象とする曜日をチェックし、除外する曜日のチェックをはずします。

☒ 日曜日 ☒ 月曜日 ☒ 火曜日 ☒ 水曜日 ☒ 木曜日 ☒ 金曜日 ☒ 土曜日

< 戻る(B) 完了

CIO レポートの評価では、この画面での設定をする必要はありません。

[完了]ボタンを押下すると、CS-ADVISOR 評価条件ファイルウィザードが完了し、評価条件ファイルが出力されます。




上記メッセージの[OK]ボタンを押下すると、「CS-ADVISOR メイン画面」に戻り、登録した評価条件ファイルのタイトルが「システム評価条件ファイル一覧(L)」に表示されます。

## 第3章 評価

### 3.1. 評価実行手順

評価の実行は、評価条件ファイルに従って行われます。

「CS-ADVISOR メイン画面」の「システム評価条件ファイル一覧(L)」から、作成した評価条件ファイルを選択し、「処理選択(S)」欄から「システム評価実行」を選択します。


CS-ADVISOR メイン画面

評価条件ファイルの情報に従い、評価を実行します。ここでは評価の実行、評価結果の閲覧、評価条件ファイルの作成/変更/削除を行います。

処理選択(S)

☒ システム評価実行  
選択された評価条件ファイルに従って評価を行います

☐ システム評価結果閲覧  
選択された評価条件ファイルを使用して過去に実行した評価結果を表示します

☐ システム評価条件ファイル新規作成  
評価を行うための評価条件ファイルを新規作成します

☐ システム評価条件ファイル編集  
評価を行うための評価条件ファイルを編集します

システム評価条件ファイル一覧(L)

評価単位	設定名	サイト名	システム名
複数評価	CIOLレポート(すべてのシステム)	<すべて>	<すべて>

コピー(C)...

削除(D)

システム評価条件ファイル設定内容

評価条件項目	設定情報
評価対象システム	すべてのシステム
評価対象日時	2013年5月1日 00:00 ~ 2013年5月31日 23:59
対象曜日	すべて
対象時間帯	時間帯指定なし
一日の区切り時間	0時
CSV形式ファイル出力	しない
グラフファイル出力	しない
評価結果ファイルの出力形態	テキストファイル
テキストファイル出力ベースフォルダ	C:\IIM_DATA\CS\ADVOUT\Multi\CIOLレポート(すべてのシステム)

テスト評価実行(T)

< 戻る(B)

評価実行

[評価実行]ボタンを押下すると、評価を開始します。

### 3.2. 評価結果閲覧

評価結果閲覧は、評価実行によって出力されたテキストファイルを開き、内容を閲覧する機能です。

CSV 形式ファイルやグラフファイルも外部アプリケーション(それぞれの拡張子に関連付けられたアプリケーション)を起動して閲覧することができます。

### 3.2.1. 評価結果ファイル閲覧手順

「CS-ADVISOR メイン画面」の「システム評価条件ファイル一覧(L)」から、表示したい評価結果ファイルの作成に使用した評価条件ファイルを選択します。そして「処理選択(S)」欄から「システム評価結果閲覧」を選択し、[次へ (N)>]ボタンを押下すると、「CS-ADVISOR 評価結果閲覧 - 評価結果選択」画面が表示されます。

[illegible]

「評価対象日付 / 時刻(D)」欄から閲覧したい評価結果の日付／時刻を選択し、[次へ (N)>]ボタンを押下すると「CS-ADVISOR 評価結果閲覧」画面が表示されます。

## 3.2.2. 評価結果ファイル閲覧

CS-ADVISOR システム評価 評価結果閲覧

評価結果ファイル(F)

- チューニングヒント
  - チューニングヒント
  - 重要度
  - 相関度
- 資源ログ
  - コスト削減[CPU使用率 最大値][投資額]
  - コスト削減[CPU使用率 最大値][能力値]
  - コスト削減[CPU使用率 平均値][投資額]
  - コスト削減[CPU使用率 平均値][能力値]
  - 安定稼働[CPU使用率 最大値][システム]
  - 安定稼働[CPU使用率 最大値][飽和予測]
  - 安定稼働[CPU使用率 最大値][前年同月]
  - 安定稼働[CPU使用率 最大値][前月比値]
  - 安定稼働[CPU使用率 平均値][システム]
  - 安定稼働[CPU使用率 平均値][飽和予測]
  - 安定稼働[CPU使用率 平均値][前年同月]
  - 安定稼働[CPU使用率 平均値][前月比値]

【活用度サマリーレポート】

この表は評価対象サーバ全体の活用状況を示しています。  
未活用総額が目標に対して適正な範囲でコントロールできているか、またコスト削減活動が効果的に機能し

【各列の説明】

- 年/月 …… 対象の月を表しています。最新の月が上位に表示されます。
- サーバ台数 …… 評価対象となったサーバの台数です。
- 投資総額(万円) …… サーバ毎の投資額を合算した値です。
- 活用総額(万円) …… サーバ毎の投資額にCPU使用率の割合を乗算し、それらを合算した値です。
- 活用比率(%) …… 投資総額に対する活用総額の比率です。
- 未活用総額(万円) …… 投資総額から活用総額を減算した値です。
- 未活用比率(%) …… 投資総額に対する未活用総額の比率です。

年/月	サーバ台数	投資総額(万円)	活用総額(万円)	活用比率(%)	未活用総額(万円)	未活用比率(%)
2012/05	243	56,726	15,723	27.7	41,003	72.3
2012/04	243	56,726	14,700	25.9	42,026	74.1
2012/03	233	54,991	13,099	23.8	41,892	76.2
2012/02	233	54,991	13,581	24.7	41,410	75.3
2012/01	233	54,991	15,193	27.6	39,798	72.4
2011/12	233	54,991	13,876	25.2	41,115	74.8
2011/11	233	54,991	14,157	25.7	40,834	74.3
2011/10	233	54,991	14,185	25.8	40,806	74.2
2011/09	233	54,991	13,467	24.5	41,524	75.5
2011/08	228	54,066	14,397	26.6	39,669	73.4
2011/07	228	54,066	13,060	24.2	41,006	75.8
2011/06	204	46,069	10,666	23.2	35,403	76.8
2011/05	202	45,388	10,962	24.2	34,426	75.8

印刷(P) HTML表示(H) CSV表示(C) グラフ表示(G) < 戻る(B) 相関判定

「評価結果ファイル(F)」欄に、出力された評価結果ファイルの項目がツリー表示されます。ここで表示する項目を選択すると、右側の表示欄にテキスト形式で出力された評価結果ファイルを表示します。

この画面は、最大化して閲覧することや、ウィンドウフレームをマウスでドラッグし、ウィンドウサイズを変更することができます。

**メモ！**

CIO レポートの評価では、チューニングヒントの出力を行いません。

### 3.3. Performance Web Service での閲覧

CIO レポートの評価結果は、Performance Web Service へアップロードし、閲覧することが可能です。  
Performance Web Service へのアップロード方法については、下記のマニュアルを参照してください。

- ・Performance Web Service 使用者の手引き